

講義の概要

少子化、核家族化が進む現在、乳児から子どもを園に預け働く保護者が増えました。保育者には、子どもの最善の利益を尊重することを目的としつつも、保護者のもつ様々な悩みに向き合い、共に考えていく姿勢、子育てのパートナーとしての役割が求められています。保護者一人ひとりに寄り添い、支援するために必要な知識や心構えなどについて、併設校である幼稚部に勤めた経験も交えながら、皆さまと一緒に考えて参りたいと思っています。

学びのポイント

1. 現代の保護者を取り巻く子育て環境と子育て支援
2. 保護者との信頼関係をどう築くか
3. 保育の積み重ねをとおした子どもの成長の共有
4. 特別な配慮が必要な保護者への支援

【実践事例】

- * 信頼関係の先に（保護者と共に保育を紡ぐ）
- * 子育て支援の実際（満2歳児親子クラス）



CHAPTER1

現代の保護者を取り巻く 子育て環境と子育て支援

①保護者を取り巻く社会的環境の変化と子育て不安の増大

- ・少子化、核家族化の進行
- ・あふれる育児情報
- ・経済的困難、ひとり親家庭の増加

②園における子育て支援の必要性と保育者の役割

- ・入所する子どもの保護者と地域の子育て家庭に対する支援
- ・子育てのパートナーとしての保育者の役割

「指示」ではなく、寄り添いサポートする「支持」を



保護者が求めている課題に対して、保護者の気持ちを受けとめ寄り添いながら、相談に応じたり必要な助言を行ったり、子どもへの関わり方のモデルを示すことなどの援助こそ、**保育士の専門性を生かした指導**である

CHAPTER2

保護者との信頼関係を どう築くか

①保護者に対する子育て支援の基本

- ・子どもの最善の利益の尊重
- ・保護者の養育力の向上を支える
- ・保護者の自己決定を尊重する
- ・プライバシーの保護と秘密保持

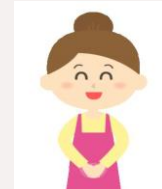
「自分たちで考えて、決断した」という納得感が大事



最終的な「決断」をするのは、家族であり保護者

保育者としての支援

- ・保護者の話に耳を傾け、共に考える
- ・「自分たちで選んだんだという」自信を育む
- ・保護者の納得できる選択を常に支持する



「納得できる選択」は、保護者の自己肯定感を高めます。

CHAPTER2

保護者との信頼関係を どう築くか

② 日頃からの信頼関係づくりを大切に

- ・子どもとの信頼関係を土台に、保護者一人ひとりと向き合う
- ・受容と保護者への共感的理解（共感とは？）

「共感」とは、相手の心を鏡のように映し出すこと

いざ、話し始めてみると「自分の思い」をすべて話すことは意外と難しい。

本人も気づいていない「本当の思いがある」



・相手の「思い」を言葉で表す

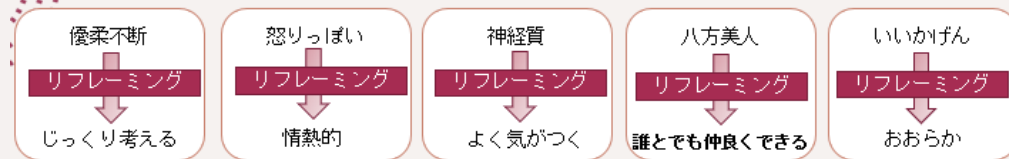


保護者本人が自分で気づかなかった「思い」に気づくことが大切です。

・自己開示とリフレーミング

- ・ 自己開示：自分をオープンにすること
- ・ リフレーミング：心理的な出来事のフレーム（枠組み）を別の視点からみてみること

⇒同じ出来事（姿）でも、プラスの視点でみるか、マイナスの視点でみるかによって、表現も印象も変わってくる



③ 親子の安定した関係を支える

- ・親子の朝夕の別れと再会を大切に
- ・子どもの心の育ちを伝える

CHAPTER3

保育の積み重ねをととした 子どもの成長の共有

- ① コミュニケーションを大切に、子どもの育ちを共有する。
- ② 日々の連絡帳や園だより、**クラスだより**をととして信頼関係を築く。
- ③ **行事等**をととして、保護者と共に子どもの心と体の成長を共有する。

保育参加WEEK



保育参観ではなく、参加して頂く中で、育ちを共有していく。5歳児では、一緒にリレーを行う等も（公園で特訓してきました！という保護者もあり）。

クラスだより

なかよし

毎週作成。次週の予定も含め、クラスの様子、個人と集団の育ちを伝えていくツールとして使用。アンケート等も実施。

行事の見直し

コロナ禍における幼稚部「生活発表会」5歳児



園の目標や目の前の子どもの姿と合致する行事づくりについて（コロナ禍において、保護者にどのように育ちを伝えていくかを検討）職員全体で意見を出し合い、見直しを行う。

『保育アシスタント（参加希望の保護者に、保育者として、散歩や調理活動等に、数名ずつ1年間を通して入って頂く）』保護者の方からのメッセージの掲載。

CHAPTER4

特別な配慮が必要な保護者とのかかわり・支援

- ①園に通う保護者の多様なニーズを理解し、個別に支援していく。
- ②発達上の課題のある子どもの保護者には、その気持ちに寄り添いながら支援を進める必要がある。
- ③育児不安をもつ保護者への支援は、慎重かつ丁寧な姿勢が求められる。

事例「階段が怖いです」



4月、年中組の新学期。年中組の保育室は2階にあるので、進級当初は1階からの階段を親子それぞれに緊張感をもって上ってくる毎日。エイタくんの母親から園長宛てに電話があった。内容は、エイタくん（下り）とコウスケくん（上り）が階段ですれ違った時に、コウスケくんとぶつかってエイタくんが転びそうになり危なかった、とのこと。階段はとても危ないところなので、年中になり2階の保育室まで毎日上り下りする生活がとても心配だ。進級後のこのところ、エイタくんがまた通園カバンの紐を噛み始めた。年少入園時もTシャツの袖を噛み、ポロポロにしてしまったのと同じストレスの表れではないか、と。2階に年中クラスがあるという配置自体を何とかしてほしい、そうでなければ階段にもっと安全対策を、ということで担任宛てではなく園長への電話であった。エイタくんの母が、エイタくんと比べて体が大きく活発な男の子（コウスケくんなど）とエイタくんとの接触が多い園生活に不安を強めている様子がうかがわれた。昨年年少時にもコウスケくんのごとでエイタくんの母から同様の内容で相談があった。園長からは、園児の階段使用に関してはこれからも園全体で注意を払っていき、子どもたちにも繰り返し指導していくことを伝える。さらに同じ年中組であっても園児の姿は十人十色であり、コウスケくんを乱暴な子として捉えて欲しくないことなどを伝えつつ、一人ひとりの成長の課題を担任を含め園と家庭とで共通理解していきたいことを伝えた。

エイタくんは全体的に発達がゆっくり目で、足腰が弱く、よく転ぶ。指示や促しがないと動かなかったり、次の行動に切り替わらない姿から、年少時の担任はエイタくんには自分から進んで行動する経験がとても少ないのではないかと考えていた。このことを踏まえて、当時保護者にはまずなるべくたくさんお母さんと一緒に歩くことなどを提案している。その提案を受けてエイタくんの母は、徒歩で通園する機会も取り入れてくれたが、母が常に前を歩き、エイタくんの腕をぐいぐいと引っ張って歩き、親子で顔を合わせて話しながらという様子はない。年長への進級時にもエイタくんの受動的な様子に大きな変化はなかった。

あなたならこのようなケースの場合、どのように援助・支援をしますか？

事例を読み解いてみましょう 「発達の問題を保護者と共有する」

保護者にとって我が子の発達の個人差を受け止めるのは難しいことである。 自分の子どもの姿を他の子どもと比較してみているといたずらに不安が増すだけである。しかし、自分の子どもの姿だけしか見ていないと発達の見通しをもちにくい。**園生活を通し、的確に子どもの育つ姿と発達の課題を捉えて保護者に説明し、どのようにすれば子どもがより充実した園生活を過ごせるかを共に考えていくことが保育者の責務である。**

エイタの保護者は年中組4月の時点では、体の大きく活発な子との接触で大きなケガをするのではないか、そのような生活にエイタがストレスを感じているのではないか（カバンのひもを噛む）ということへの不安が強い。そのような状態では新しい環境に取り組んでいくことでエイタに育まれる力があると期待する気持ちになれない。むしろ、今すぐ園の方で防護策をとってほしいと考えている。園としても保護者の気持ちに配慮し、園児の生活における安全対策は当然園の責任であることを確認し、**保護者の安心を得られるように努めることを優先する。**

しかし、エイタの保護者と保育者、園との間でエイタの**発達の問題を共有する**という重要な課題が、在園2年目に入った段階で十分達成されていない。年少時以来、担任が折々に挟むアドバイスやコメントの中でエイタに必要な個別の配慮について伝えるが、保護者はエイタの発達の問題としては捉えていない。年中組の一年間も担任なりに努力しつつも同様に経緯し、この後、エイタは年長組11月の就学時健診で発達に問題があると指摘される。保護者は、“園ではそのようなことを言われたことが無い”と動揺することになる。

園で幼児が生活する際に示す様々な様子から、幼児の発達の問題が明らかになることがある。しかし、その認識について保護者と共通理解を得ることは必ずしも容易ではない。 事例のように**保護者自身の心配や訴えが、共通理解の手がかりになることもある。** 発達診断をすることが保育者の役割ではなく、園生活を通して、その子どもをどのように理解しているかを機会を捉えては丁寧に保護者に伝えていくことが大切である。子どもの姿を注意深く見守りつつ、必要に応じて専門機関につなげていくなど、**園が子どもと家庭のためにできるサポートは何かを常に考えておくことが大切**である。

【実践事例】

* 信頼関係の先に…保護者と共に保育を紡ぐ

- 子どもたちの生活をより豊かに 保育内容の充実を図る -



どちらの活動も、幼稚園の保護者ということが大きいです。

「できる人が、できる時に、できる事を」をモットーに、任意で登録して頂いたボランティアの方に教育活動や環境整備のお手伝いをお願いしています。活動は原則として平日の保育時間内に行われています。（ボランティア活動）

- 保護者が生き生きと力を発揮できる場を -



保護者で同好の方が自主的に集い、役員会による管理のもと、教育活動と調和のある活動を行っています。同じく、活動は原則として平日の保育時間内に行われています。「カナリアコーラス隊」と「絵本クラブ」があります。〔只今、コロナ禍により休止中〕（サークル活動）

【実践事例】

＊子育て支援の実際 - 鎌倉女子大学幼稚部 満2歳児親子クラスでの取り組み -



シールをはって

赤ちゃんたちをお山の上のせてみたり…

電車を走らせたり…

あそびがスタート

保育者：関わり方のモデル、遊びのモデルを示す

粘土をしたり…

うさぎちゃんと手をつなぎ一緒にマットの滑り台♪

みんなで絵本の時間♪

お待ちかねのおやつタイム♪

満2歳児親子すみれクラスの日

10:00 登園

親子で好きな遊びを見つけての活動

11:00 片付け

11:10 集い・おやつ

11:30 降園

毎回の様子を簡単にまとめ、最後に『すみれクラスのおもいで』として冊子にし、プレゼント。
(育ちの共有)

わらべうた遊び、
絵の具、マラカス
作り、散歩、クリ
スマス会、豆まき
等といった様々な
活動も実施。



岩瀬キャンパスでの「わらべうた」

絵の具のスタンプに、マラカス作り!

サンタさんのお届けものは??

大船キャンパス内でお散歩!

「どんぐりちゃん、はい、お土産どうぞ」

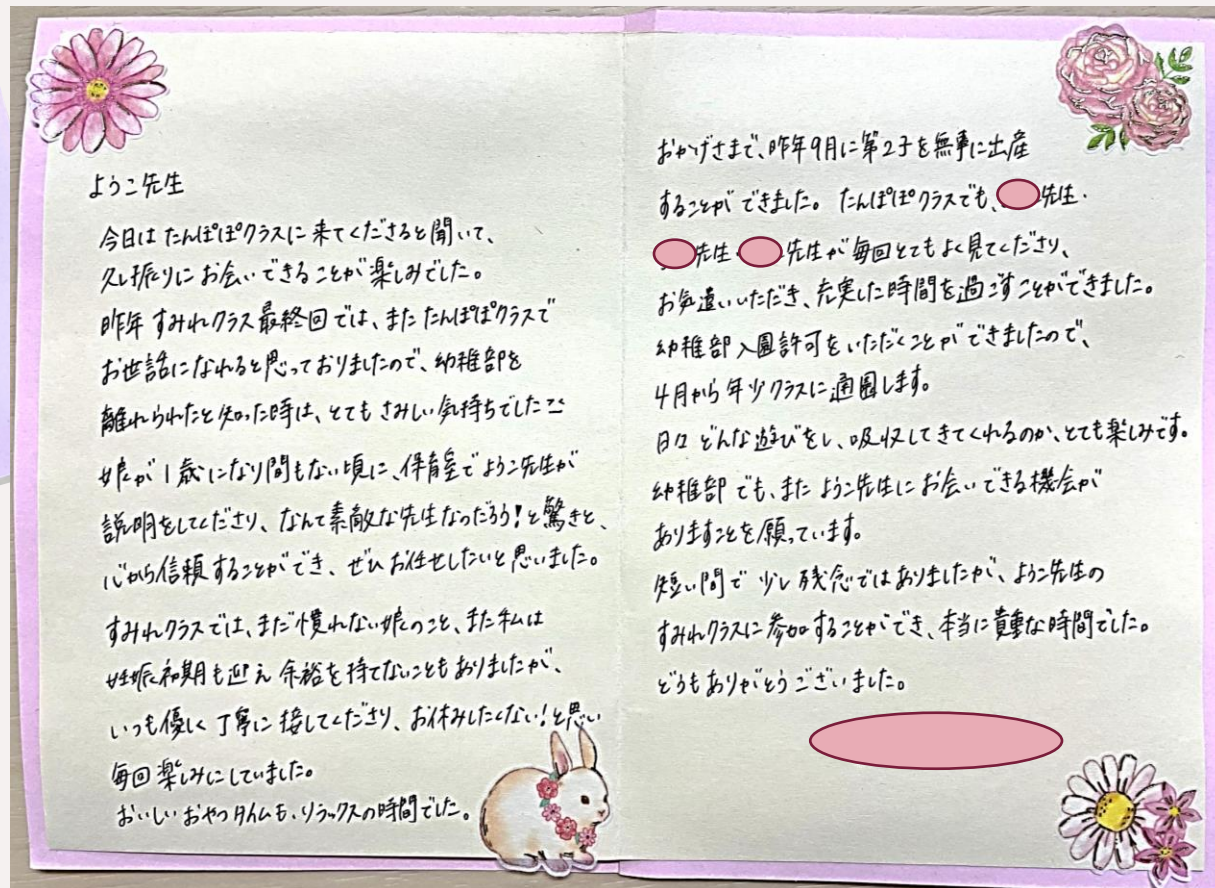
「鬼はそとー、福はうちー!」

2がっき

9がつ30にち げつようび
2がっきさいしょのひがたいふうでおやす
みになり、ひさしぶりのすみれクラスでした
ね。えほんコーナーに、ドーナツと
ジュースを運んで、パーティーがスター
ト!〇〇せんせいも、なかまにいらしてくれ
とってもうれしかったです。ミックスジュ
ース、おいしかったよ♪
ままごとコーナーでは、おかあさんといっ
しょにおかいものごっこ。れいぞうこのとび
らを「ピンポン!」とあけて、かったもの
をバックいっぱいにつめこんで・・・くりか
えしたのしんでいましたね。かえりには、
「まだあそびたーい!」と〇〇ちゃんか
ら!〇〇ちゃんが、そんなまもちになっ
て、うれしいまもちでいっぱいせんせい
たちでした。



満2歳児すみれクラス 保護者からのお手紙



『すみれクラスのおもいで』に対しても含めて、保護者の方から頂いたお手紙です。このようなやりとりを通して、保育者としてのやりがいを改めて感じます。皆さんも是非、保育者としての一歩を、踏み出してほしいと願っています。

ご視聴ありがとうございました

